



Yokohama Arts Foundation

横浜から世界へ羽ばたく新進アーティストを支援 U39 アーティスト・フェローシップ助成、助成対象者決定

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団は、文化芸術のもつ創造性を生かしたまちづくり「文化芸術創造都市・横浜」の推進のため、アーツコミッション・ヨコハマ (ACY) 事業を実施しています。

この度、横浜から世界に向けて芸術文化を発信する新進アーティストのキャリア形成を支援する助成制度「U39 アーティスト・フェローシップ助成」において、5名の助成対象者を決定しましたのでお知らせします。新進アーティストの活躍に、ぜひご注目ください。

1 助成名

U39 アーティスト・フェローシップ助成

2 助成内容

横浜から世界に向けて芸術文化の発信を目指すアーティストの多様な活動に対して、年間の活動経費の一部に対する助成金をはじめ、各種情報提供や広報など、横浜での活動を中心に柔軟に支援し、キャリア形成を推進する。

3 助成対象者

5名 (新規3名、継続2名 / 申請数56名)

4 交付金額

1名あたり 1,000,000円

5 審査員

相馬 千秋 (NPO 法人芸術公社代表理事、アートプロデューサー)

藤原 徹平 (フジワラテッペイアーキテクトラボ代表、横浜国立大学大学院 Y-GSA 准教授)

山峰 潤也 (東京アートアクセラレーション共同代表、ANB Tokyo ディレクター)

小野 晋司 (横浜赤レンガ倉庫1号館館長、チーフプロデューサー)

木村 絵理子 (横浜美術館主任学芸員)

6 選考のポイント

独創性：手法や形態、また思想や題材など優れた発想や独自性を有した活動や芸術創造が期待される

影響力：分野を越え、次代の価値や活力をもたらす活動や芸術創造が期待される

実現性：計画および資金使途が明確であり、活動規模や計画進行が妥当である

※アーツコミッション・ヨコハマ (ACY) は、(公財) 横浜市芸術文化振興財団が横浜市文化観光局の補助金を受けて運営する事業です。(横浜市中区山下町2産業貿易センタービル1F <https://acy.yaf.jp.org>)

※ぜひ当助成プログラムの取材、情報掲載をお願い申し上げます。

裏面あり

お問い合わせ先 *本日は17:15まで在席しております。

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団

ACY・協働推進グループ	グループ長	鈴木 敦	TEL : 045-221-0212
ACY・協働推進グループ	担当	小原 光洋	TEL : 045-221-0212

【2022年度 U39 アーティスト・フェローシップ助成：助成対象者】(50音順)



Photo: 北岡稔章

小暮 香帆 (コグレ カホ) (新規)

ダンサー・振付家。自身の作品を発表しながら劇場、音楽ライブ、メディアなど様々な領域で活動。ソロ作品「ミモザ」(2015)は初演以来3ヶ国9都市で上演。また笠井 叡をはじめ多数振付家作品に出演、海外ツアーに参加。近年はオーケストラ、他ジャンルのアーティストとのコラボレーション、グループ作品、映画の振付もおこなう。第2回セッション・ベスト賞、第6回エルスール財団新人賞受賞。Dance Base Yokohama レジデンスアーティスト。めぐりめぐるものを大切に踊っている。



佐藤 朋子 (サトウ トモコ) (継続)

アーティスト。1990年長野県生まれ、神奈川県在住。2018年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。レクチャーの形式を用いた「語り」の芸術実践を行っている。日本が辿ったいびつな近代化への道のりや、大文字の歴史からこぼれ落ちてしまった出来事が物語る歴史の複数性への関心から調査を行い、物語を構築する。最近の活動に『オバケ東京のためのインデックス』(シアターコモンズ、2021年～)『TWO PRIVATE ROOMS - 往復朗読』(青柳菜摘との共作、2020年～)など。



佐藤 未来 (サトウ ミク) (継続)

アーティスト。東京藝術大学大学院後期博士課程映像研究科に在籍。日本とオランダを拠点に研究、制作を行う。さまざまな場所のフィールドワークをベースに、そこに住む人々を起用してプロジェクトを立ち上げていく。映像インスタレーション、ワークショップなどを用い、歴史をオルタナティブなかたちで再演することを試みる。主な個展に2020年「Girls Got Golds」puntWG (アムステルダム)、主な上映に2022年「TENT Online Cinema」TENT Rotterdam (ロッテルダム)など。



Photo: 佐藤瑞季

下島 礼紗 (シモジマ レイサ) (新規)

振付家・ダンサー。7歳から地元鹿児島でよさこい踊りやジャズダンスなど様々なダンスに取り組む。桜美林大学在学中に木佐貫邦子にコンテンポラリーダンスを学び、以降はダンス、演劇を問わず客演を重ねる。2013年「ケダゴロ」を結成し、以降、全作品の振付・構成・演出を行う。自身のソロ活動も併行して行い『オムツをはいたサル』(2017年初演)は国内外10カ所以上のフェスティバルで上演し多数の賞を獲得。横浜ダンスコレクション2017「最優秀新人賞」「タッチポイント・アート・ファウンダーシップ賞」受賞。2021年には韓国国立現代舞踊団委嘱作品として『黙れ、子宮』(振付・出演)を上演。2022年度より公益財団法人セゾン文化財団セゾンフェローI。



ジョイス・ラム (新規)

映像作家、編集者。香港生まれ。2022年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。映像作品やレクチャーパフォーマンスの制作を通して「家族」の定義を捉え直す。国や組織が作る複数の家系図を用いた修了制作の「家族に関する考察のトリロジー」を、TOKAS-Emerging 2022の個展として発表(トーキョーアーツアンドスペース本郷、2022年)、および横浜国際舞台芸術ミーティング(YPAM)フリンジ2021にて自宅で上演。現在、「Bauhaus Lab 2022: Camps for Liberation」(バウハウス・デッサウ財団)のプロジェクトリサーチャーとしてドイツに滞在中。